

学校だより・あすなる

校長 田崎俊一郎



2月の学校生活

2月のことを如月といいます。これは中国の古い書物に、「2月を如となす」という記述があるからだそうです。語源は、諸説ありますが、よく言われる寒さが厳しいので衣を重ねて着る「衣更着～きさらぎ」という意味だという説。ちょうど今の季節にピッタリとくるように思います。

さて、今週から2月です。1月は3学期のスタートで張り切っている子どもたち。次の学年に向けて気持ちが高まる3月。2月はちょうど中間でいわゆる“中だるみ”が見られる月です。また、進級や進学を控え、自分の将来や進路について考えたり、友だちとの関係に変化があったりします。そんな状況で子どもたちは、不安や緊張を感じるがあります。

子どもたちの不安のサインとして、厚生労働省のHP“こころメンテしよう”にはいくつか示されています。例えば「不眠・体重の急激な変化・体調の変化」等があるそうですが、中でも一番他の人がとらえやすいのが行動面のサインです。「友達と遊ばなくなった。身だしなみにかまわなくなった。何度も同じ動作や行動をくりかえす。気持ちが抑えられなくなり暴力をふるう。何もしないで長い間ぼんやりしている。独り言を言うようになった。」等です。これらすべてがこころのSOSというわけではありませんが、長期的に続くようなら、何かしらの不安を感じているのかもしれない。特に、子どもたちの行動面をよく見て、2月の学校生活が充実したものになるように指導と支援に努めます。

薬物乱用防止教室

6年生を対象に、薬物乱用防止教室を行いました。学校薬剤師の石橋先生をお迎えして、薬物依存の怖さについて教えていただきました。後半は、「正月、親戚のおじさんにお酒を勧められたらどうするか?」「友達に、やせる薬を一緒に飲もうと誘われたらどうするか?」など、それぞれの役割に分かれて演技をしました。役を演じた児童は「実際にその場だったら断れるかどうか」と、感じた気持ちを素直に表現していました。薬物乱用について、「6年生の子どもたちにどの程度教えるかたいへん難しい。」と、石橋先生は話をされていました。「詳しく話すと、かえって興味を広げることにつながってしまう。」と、心配をされていました。一度の指導に終わらず、各年代で系統的、継続的な指導が必要だと感じました。



代表委員会



ありがとう集会に向け、5年生が中心となり代表委員会を開きました。卒業する6年生の思い出に残る集会にしよう、と各学年の代表がそれぞれの意見を出し合いました。送る気持ちも高まってきました。